

硝子織維協会会長賞

主催：一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構

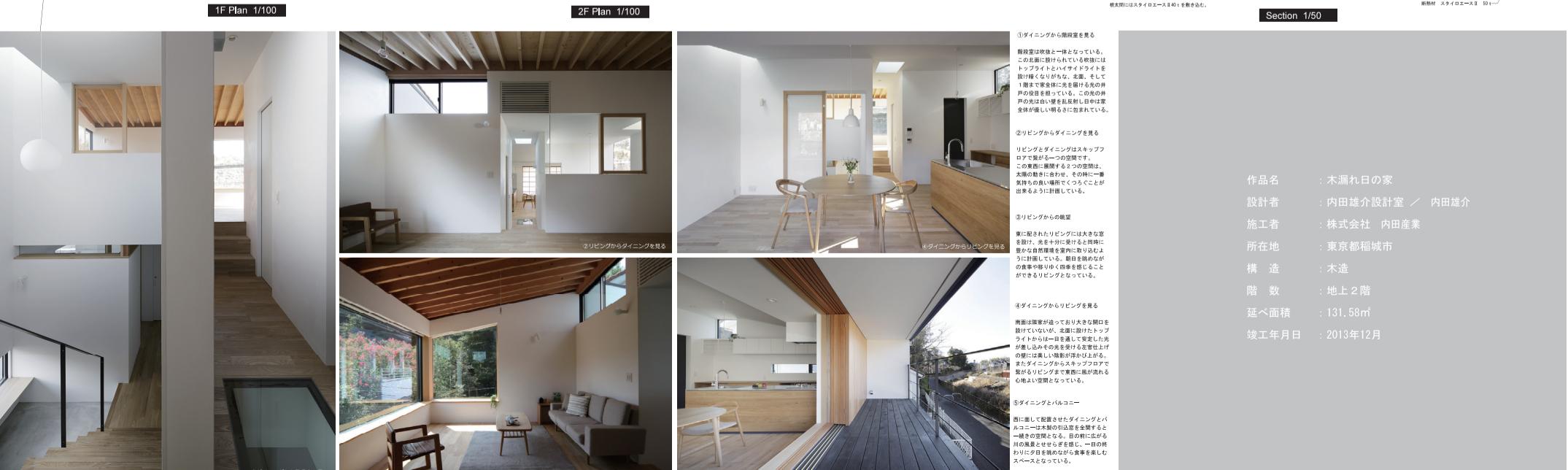
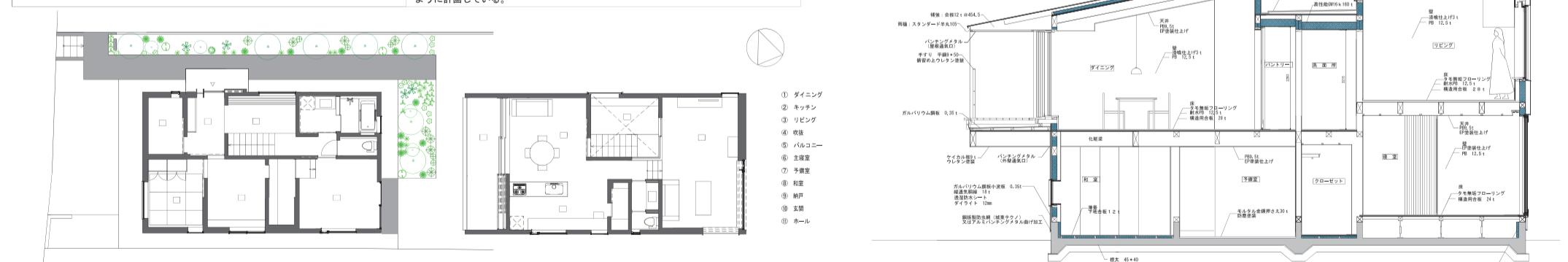


komorebi no ie

木漏れ日の家

「木漏れ日の家」は、一日の始まりに朝日を眺め、そして一日の終わりには夕日を眺める。そんな自然のリズムと共に暮らしきを求めた住まいである。南からの直接的な明るさが期待できない敷地条件の中、外部への開口部は最小限に押さえつつも効果的に配することで、敷地周辺の緑に包まれている感覚を演出し天窓とその光を受ける壁の効果的なバランスによる明暗の対比が心理的に明るさを意識するきっかけとなり光に包まれた「木漏れ日」のような空間を表現している。水や緑を感じる豊かな自然に包まれた環境で人と町と自然がより調和するようにそれらを繋ぐ建築の姿を目指したこの住宅は「時の移ろい」と「景色」という自然のリズムを享受する。また建物の高さを抑えることでうまれる外部環境と適切なスケール感が周囲との調和をもたらす良好な関係性が見いだされる。また内部においては「仕切」や「レベル差」などのしつらえやゆったりとした光の移ろい、穏やかな風の流れ、生活の中で肌に触れるあらゆる素材の質感に至るまで丁寧にデザインすることとシンプルな空間の中に確かな温もりがあり、心が安らぐ空間となっています。1階は天井高を抑えたスペースで構成し開口部も限定しているがそれを吹抜をかいし光に包まれた上階へと誘う事を意識している。スキップフロアで繋がる東西に展開するリビング・ダイニングは連続する一つの空間であり、一刻一刻変化する日照条件の伴い、その時に心地よい場所へと自らが移動し光と美しい眺望を享受すべく計画している。このように部屋の用途を限定せず、心地よい場所に居場所を設けることで生活にならたなゆとりをもたらしてくれる事を期待した。

省資源・資源循環について	省エネルギーについて	住宅の長寿命化について
<p>敷地周辺には、本建物を除き3棟建っています。そのうち2棟の住宅は井戸による地下水を利用しています。現在は水道設備を利用してますが、将来的には近隣の住宅と同様に地下水の利用も視野に入れ、また周辺環境を考慮し敷地は雨水を浸透させる事前提にて構設計画を進めた。具体的には建物の周囲を囲む大走り部分にはコンクリートを打たずに砕石敷とし、また底の大部分は植栽と砂利敷にて積極的に雨水の浸透を図った。</p> <p>自然エネルギーの利用</p> <p>南面は隣家によって塞がれている為、南からの日照は期待できない敷地条件ではあるが、トップライトを効果的に配することで日中において十分な明るさを確保している。さらに東側の丘陵地から西側の河川での風の通り道を造ることで、室内は快適な環境となっている。また軒を深くする事で、夏期の西日を防ぐと同時に冬季においては太陽光を取り入れるように計画している。</p>	<p>断熱材・サッシ等は次世代省エネ基準をベースとし、夏期の遮熱、冬季の熱損失の防止を図った。2階の天井は表し天井としているため、夏期の室内環境の向上のため、屋根には通気層を設けている。また一部、制作による木製家具をしようとしているが隙間風防止のため、障子を設けるなどして温湿環境に配慮した。設備では将来的には熱容量の大きい土間部分に蓄熱暖房器を設置できるように電気工事を施している。</p> <p>日本住宅性能基準において耐震等級2・省エネルギー対策等級4の仕様を基本に計画している。またシロアリ対策として、基礎は一体打ち工法を採用した上で基礎断熱材は基礎の立ち上がり外側に施工し、また配管貫通部分については防蟻シートを施工した。さらに土台には防蟻テープをまわしている。外壁材、屋根材には耐久性を考慮しガルバリウム鋼板を採用している。</p>	<p>柱: (1) リラウンド柱 鋼管壁厚: 0.25t 梁: (2) I 形鋼 梁高: 12t 床: (3) 断熱材: EPS (スチロールエース: 45t) 屋根: (4) 断熱材: EPS (フォームセメント: 45t) 化粧材: (5) リサイクル合板</p>



作品名 : 木漏れ日の家
設計者 : 内田雄介設計室 / 内田雄介
施工者 : 株式会社 内田産業
所在地 : 東京都稻城市
構造 : 木造
階数 : 地上2階
延べ面積 : 131.58m²
竣工年月日 : 2013年12月